

三里塚・ジェット闘争貫徹、「国鉄35万人体制」粉碎！

駆場・生産点からの反撃で35万人体制を粉碎しよう

的方策では、①輸送力の近代化のため、都市間・大都市圏旅客輸送及び大量定型貨物輸送を中心とする。又鉄道特性を發揮し難い分野については、輸送力の見立する。

国鉄の全面的再編を狙う「経営改善計画」

さられた「経営改善計画」

まず、I 基本方針では、「国鉄経営は、危機的状況にある」として、①都市間・大都市圏旅客輸送、大量・定期貨物輸送などに経営を重点化する。②輸送力・営業範囲の縮小など徹底的な減量化をはかる。③運賃の適時適切な改定を行う。④正常かつ円滑な労使関係の確立。⑤財政上の措置としてこの「経営改善計画」が「後のない計画」であり、「不退転の決意」でこの完遂を期す。』としています。

基本方針 I 経営改善の具体的方策 III 収支改善の目標 N 部門別経営改善計画とからなっています。

“後のない計画”として打ち出された「経営改善計画」

・特別地方交通線の廃止・バス輸送などへの転換をはかる。と

しています。

職場討議シリーズ No.3

* 「経営改善計画」

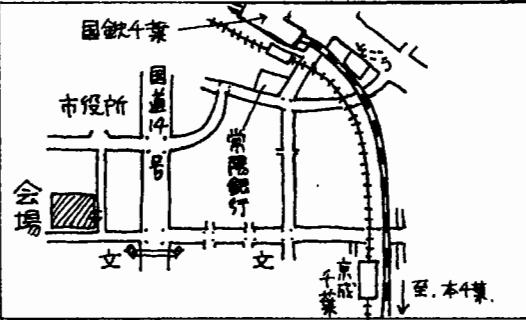
国鉄三五万人体制合理化計画は、国鉄当局が一九七九年七月「一九八五年度において職員三五万人体制を実現する。」として「国鉄再建の基本構案」を発表し、同年十二月、大平自民党政権が閣議了解「日本国有鉄道の再建について」を決定し、一九八〇年十一月二八日、「日本国有鉄道経営再建促進特別措置法」が国会において成立し、さらに、この「国鉄再建法」第四条にもとづいて、国鉄当局が一九八一年五月一日、「国鉄経営改善計画（案）」を運輸大臣に提出したものでした。そして、この「経営改善計画」の細部にわたる具体的、全面的な大合理化計画を去る九月二一日、国鉄内各労組に提案してきたのです。つまり、この「経営改善計画」は、「国鉄再建法」という法律を背景として打ち出されてきたものです。

[2] 国鉄の全面的再編を狙う「経営改善計画」の内容

82.1.14
No.942
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二九三五六・(公電)四三三二七二〇七

会場
市役所
市道14号
常陽銀行
文
文
千葉
至、本千葉

● 動労千葉団結旗開きに結集しよう……
日時 1982年1月16日 13時～
場所 労働者福祉センター・大ホール
【プログラム概要】
● 主催者あいさつ 関川 宰執行委員長
● 講演「『右翼労戦問題』と三里塚闘争」 高島喜久男（労働運動評論家）
● 基調「82年をいかに闘うか」 中野 洋 書記長
● 各支部決意表明
連帯あいさつ 三里塚反対同盟、県労連、顧問弁護団、他
アトラクション 民謡、ギター演奏、各支部対抗カラオケ大会、他



さらに、IV 部門別経営改善計画において、徹底した合理化計画の内容をより具体的に明らかにしています。

この点については、次号で検討することになります。（以下、つづく）